

## 装飾古墳の保存・管理状況の実態調査について

### 1 調査の趣旨・内容

#### （1）趣旨

現在、国史跡の装飾古墳は56件あり、各地方公共団体において、保存活用に取り組まれているところである。先般の東日本大震災において、多くの文化財が被災し、福島県や宮城県等の装飾古墳についても被害が確認され、常時の保存・管理体制と、被災時の保存・管理体制の在り方など、行政的には適切な保存管理体制が求められる。こうしたことから、国指定の装飾古墳の保存管理状況を把握することを目的に、全国的な悉皆調査を実施した。

#### （2）調査内容

- ①調査期間：平成23年12月2日～24年1月31日（調査後も適宜対応）
- ②調査対象：国指定史跡の装飾古墳（15府県・56史跡・72基）
- ③調査内容：
  - （i）装飾古墳の基礎情報について
  - （ii）装飾について（埋葬施設等の規模等）
  - （iii）管理状況について
  - （iv）保存・管理施設について
  - （v）公開の状況について
  - （vi）装飾の状況について 等

### 2 調査結果の概要（詳細は参考資料参照）

#### （1）調査対象

56史跡（72基）の装飾古墳

#### （2）装飾の種類について（重複事例あり）

線刻壁画：28基、 彩色壁画：43基、 石棺等に彫刻：8基

→ 彩色壁画が過半数を占める

### (3) 管理状況について

#### ①保存・管理対策の有無

対策あり：70基、 対策なし：2基

→ 概ね保存管理対策がなされているが、対策されていないものもある。

#### ②保存管理対策の内容（重複事例あり）

保存施設・設備等の設置：54例、 管理職員・警備員等の配置：3例

定期的巡回の実施：51例、 その他：22例

→ 保存施設の設置と定期的巡回が中心となる

#### ③装飾の点検の有無

点検している：63基、 点検していない：9基

→ ほとんどの古墳で装飾の点検が行われているが、点検が実施されていないものもある。

#### ④点検者の種類（重複事例あり）

専門職員：55例、 事務職員：11例

自然科学等の専門家：25例、 その他：6例

→ ほとんどの古墳では専門職員及び専門家によって点検が行われている

#### ⑤点検の頻度

毎日：1例、 週に1～複数回：2例、 月に1～複数回：23例

年に1～複数回：36例、 数年に1回：1例

→ 概ね1年に1回以上は点検が行われている

#### ⑥点検の方法（重複事例あり）

目視：62例、 写真撮影：24例

環境測定：26例、 その他：4例

→ 目視を中心としながらも、写真や測定による記録を残している

#### ⑦保存管理対策に関する委員会の設置について

設置している：13基、 設置していない：59基

→ 委員会の設置事例は決して多いとは言えない

#### ⑧委員会が設置されていない場合における外部有識者からの助言等の状況

助言等あり：41基、 助言等なし：18基

→ 委員会が設置されていなくとも、外部有識者から助言等を受けている事例が多い

#### (4) 保存管理施設について

##### ①保存施設・設備の内容（重複事例あり）

囲い柵：22例、 覆屋：26例、 扉等：34例

入口施設：30例、 内部施設：14例

→ 61基は何らかの保存施設を有している

##### ②保存施設・設備の設置時期（重複事例あり）

大正～戦前：6例、 戦後～昭和40年代：44例

昭和50～60年代：35例、 平成元～24年：39例

→ 古くから保護が図られているものの、老朽化が問題となる事例もある

#### (5) 装飾の公開状況について

##### ①公開の有無について

公開している：49基、 過去に公開していたが現在は公開せず：11基

公開していない：12基

→ 現在でも過半数の古墳は一般公開している

##### ②公開の頻度

常時公開：13基、 希望時のみ公開：19基

定期的に公開：12基、 その他：3基

→ 公開の頻度については装飾の状況に応じて様々である

##### ③過去の情報公開の有無について

情報公開の事例あり：8基、 情報公開の事例なし：64基

→ 多くの古墳において情報公開の事例がないが、問題等が生じた事例については、速やかな情報公開がなされている

#### (6) 装飾の状況について

##### ①過去の劣化の内容

###### ○劣化の認識

あり：31件、 なし：41件

→ 約半数が過去に劣化の認識があった。うち29件が対応済み。

○劣化の内容（重複事例あり）

退色： 3件 環境： 10件 石材： 1件 生物： 21件

遺構： 14件 保存施設： 1件 人為的： 2件

→ 環境や生物関係を原因とする事例と、遺構そのものの劣化が原因となる事例が多い。

②現状の問題（重複事例あり）

退色： 0件 環境： 20件 石材： 1件 生物： 10件

遺構： 4件 保存施設： 13件 管理体制： 4件 内部未確認： 3件

→ やはり環境や生物関係が懸念される事例が多い。保存施設の老朽化も問題となっている。

③予測される問題点（重複事例あり）

退色： 4件 環境： 11件 石材： 4件 生物： 17件

遺構： 8件 保存施設： 8件 管理体制： 4件 内部未確認： 2件

→ 今後の懸案事項は「2. 現状問題」とほぼ同じ。

### 3 検討会での検討

#### (1) 検討内容

「古墳壁画の保存活用に関する検討会」の下に「装飾古墳ワーキンググループ」を設置し、装飾古墳の保存活用の在り方について、各装飾の内容や古墳の特性を踏まえて検討を行う。その成果を踏まえ、適切な保護の在り方についての考え方や手法を示すことにより、装飾古墳を保存管理している関係地方公共団体等が装飾古墳を積極的に保存し活用することを目指す。なお、技術的な調査等については、25年度の予算要求を行っているところ。

#### (2) 今後のスケジュール

平成24年9月19日 古墳壁画の保存活用に関する検討会（第10回）

10月24日 装飾古墳ワーキンググループ（第1回）

以降、10回程度会議を開催し、検討

～平成25年度末 装飾古墳の保存活用の在り方の取りまとめ・報告